

静岡  
SHIZUOKA

## 伊豆地域の新たなる動き

～フィルムツーリズム～

去る3月、沼津愛鷹球場で地元エキストラ300人とともにテレビドラマのロケーションが展開された。その制作を地元で支えていたのが特定非営利活動法人フィルムびすけつと微助人(沼津市)。いわゆる映画やドラマのロケーションを誘致し、制作を支援する団体である。

一般的には、フィルムコミッション(以下、FC)と呼ばれ、現在、欧米を中心に世界31カ国で約300の団体が組織化され、国内ばかりでなく国際的なロケ誘致・支援活動の窓口となっている。ロケ隊の食事や宿泊など地元への直接的な経済効果の他、作品を通して地域の名所や街並みなどが紹介されることにより認知度が高まり、観光振興に大きな効果を上げるとされている。全国フィルム・コミッション連絡協議会によれば、「中立的な公的機関であること」「One Stop Serviceの提供」「作品は拒まない」がFCの最低の基本要件であるとされている。

伊豆地域には同団体の他、先輩格であるFC伊豆(伊豆の国市)が以前から活躍し、この地域が広く撮影の舞台として利用されている。映画やテレビドラマのロ



ロケ風景 於：沼津港



テレビドラマ「H2」ロケ風景

ケ地として度々の登場や昨年の「セカチュー(世界の中心で、愛をさけぶ)」ブームにより、現在でも多くのファンが観光客として松崎町を訪れているが、その仕掛け人がFC伊豆である。

但し、FCをつくるだけでロケ隊が訪れ、観光客が増加するというわけではない。ロケ地の選定には、作品にマッチした自然環境や風景などがポイントとなるが、それに加えて重要となるのが情報発信と地域の人々の情熱である。

インターネットによる情報発信も拡がりつつあるが、依然として人的ネットワークの効果が高く、両団体ともそのパイプづくりに余念がない。さらに一連の活動を通して、地域の人々に自分たちが生活する街に誇りを感じてもらい、地域活性化への参加意識を高めている。

地域活性化、観光活性化の新たなる芽であるフィルムツーリズム。近い将来、ハリウッド映画やフランス映画にもこれらの地域が登場することを期待する。

〈写真提供：特定非営利活動法人フィルム微助人〉

神奈川  
KANAGAWA

## 横浜・元町が“MM線効果”で活気づく

かつてハマトラ(ヨコハマ・トラッド)ファッションで一世を風びした横浜・元町が、地下鉄みなとみらい(MM)線の開通を機に再び活気づいている。今年2月下旬の「モトマチ・チャージング・セール」では、メインストリートは人波で埋まり、入店を制限する店舗が続出した。

街の玄関口に位置するMM線元町・中華街駅の乗降客数からも、活気が裏付けられる。同線を行く横浜市第三セクター・横浜高速鉄道のまとめでは、昨年2月1日の開業から12月31日までの同駅の1日あたりの平均乗降客数は44,000人で、当初見込みの26,000人をはるかに上回った。

“MM線効果”を増幅させた立役者は、メインストリートの協同組合元町SS会だ。同線開通後、元町SS会は天然ガストラック利用の全国初の共同配送システム、非接触型ICカードを使った電子マネー「Edy」、次世代版ETC(自動料金収受システム)などを矢継ぎ早に導入し、まち全体の安全性、快適性、利便性を高めてきた。

次世代版ETCは高速道路料金の自動決済に使われるETCと比べて、街中でのさまざまな商取引の決済や情報発信などに活用できる利点がある。元町SS会では近い将来、来街者に駐車場の空き状況や商店街のセール情報を配信したり、駐車場の予約を受け付けることなどを考えている。

これらの活動に刺激され、裏通りの店舗による商店街振興組合元町クラフトマン



“MM線効果”で活気づく横浜・元町のメインストリート

シップ・ストリートも発足した。元町には横浜開港当時から、裏通りで西洋家具、洋食器などを作り、表通りでそれを販売してきた「製販一体」の歴史がある。クラフトマン・シップにはその“原点”に立ち返る意味を込めた。

斜面地にある地下3階地上2階建ての駅舎を地上4階まで増築し、屋上部分を隣接のアメリカ山公園と一体の都市公園にする計画も動きだした(完成は2007年度)。今年3月末で整備を終えた元町のメインストリートとあいまって、元町に新たな魅力が加わり“MM線効果”にさらに拍車がかかりそうだ。